



コスモス



3月：弥生

No. 1 1

【知】 進んで学びよく考える子 【徳】 明るく思いやりのある子 【体】 たくましくねばり強い子

すべての源

校長 清水 勲

今年度の最後の月となります。本校の子供たち、愛情深い御家族と我が子のように接して下さる地域の方々に見守られ、令和6年度も笑顔を決やさずに過ごし、健やかに成長できましたこと、心より感謝申し上げます。

さて、学校関係の文章の冒頭で必ずと言っていいほどよく目にする言葉があります。それは「変化の激しい世の中」です。昨今のAI技術の急速な進歩と普及に代表されるように、これまでの「変化」とは、異なるスピードと質で「変化」が進んでいることは間違いありません。

本校では、子供たちに「変化の激しい世の中」を逞しく生き抜くための「基盤となる力」を育むよう、これまでの学校教育の良さを生かしつつ、新たな「学び」を追い求めております。

しかし、どんなに社会が変化しても、変わる事のない「教育の源」があります。それは、「**子供を愛すること**」です。これができない学校は、もう光を失っている学校といえます。本校の百周年記念誌「我が学舎の歩み」に次のような玉稿があったので一部紹介します（P.43～）。

～筆者の御家庭はとても貧しく、運動会の時に着るきれいな運動着が無かったため、運動会を仮病で休んでしまおうと思っていた運動会前日の出来事です。～

「真っ白なシャツと真っ白なパンツ」 昭和17年卒業生
(前略)

その夜、私が床についてからのことだそうです。トントンと入り口をたたく音がして、母親が出てみるとK先生が外に立っておられ「明日の運動会で、頑張るように言ってください。」と言いながら小さな包みを差し出してくれたそうです。

その包みの中身は、真っ白なシャツと真っ白なパンツでした。まるで私が仮病を使って明日の運動会を欠席することを知っているかのような出来事だったのです。

私は両親が買ってくれたものと思って、意気揚々と運動会に参加して、あまり速くはなかったのですが、せいっぱい走りました。

このことを両親から打ち明けられたのは、K先生が吹上小学校から東京の学校へ移られ、何年も経ってからでした。そして、私がこのことのお礼を述べることができたのは、半世紀近くも経ってからでした。そのとき先生は、小学校時代の私を見るような優しい目で見つめ、ただうなずいておられました。私は涙が止まりませんでした。

(以下略)

K先生の子供たち一人一人への深い児童理解、自分が行うべきことを英断して行動する強さ、そして細やかな保護者の方への心配り…、これらはすべて「子供への愛」があったからこそであり、教師として学ぶべきことの溢れる出来事として拝読いたしました。きっと筆者の方は、このK先生からの愛情をずっと忘れることなく、人としての優しさや正しさを追い求める人生の糧とされていたことでしょう。

どのように時代が変化しても、「子供たち一人一人を大切に愛すること」は、「学校教育の不変の源」であることを忘れることなく、子供たちが生きていく数年後の社会を見据えながら、「学校が行うべきこと」に尽力してまいりたいと思います。保護者・地域の皆様におかれましては、引き続き温かな御支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。